

兵庫県パリ事務所及びパリ東大学 インターンシップ報告書

経済学部 2 学年

氏名 岩根 未佳

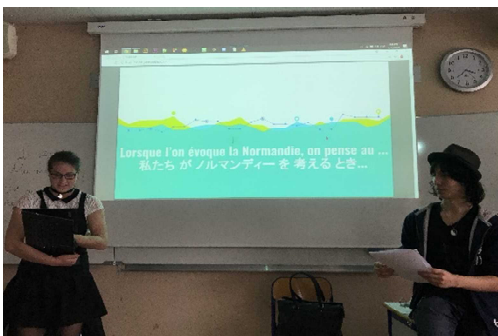
期間：平成30年3月5日～4月5日

● インターンシップの研修内容

- ・ 小学校、中学校、高校、大学を訪問し、日本文化を教え、日本に関するプレゼンテーションをする。(1日に1クラスか2クラス)
- ・ フランス在住の日本人女性にインタビュー

● インターンシップで必要な英語力・スキル

- ・ 日常会話プラス話し合いができるくらいの英語力
- ・ 1ヶ月間の海外生活を乗り切る体力とモチベーション
- ・ プレゼンテーション能力。質疑応答に答えられるくらいの英語力
- ・ 日本人として知っておくべき日本の現状（女性問題、フェミニズム、労働問題、移民問題）これらの知識も質疑応答の際に必要な知識
- ・ 海外の学生に対して積極的に会話する力



● インターンシップで得たこと

- ・ 語学力（英語、フランス語）
- ・ プレゼンテーション能力
- ・ 積極的に、主体的に行動する力
- ・ 様々な状況で柔軟に対応する力

- ・ フランス人の友人
- ・ フランス文化の知識
- ・ 多文化社会の実情を知ったこと

● 印象に残ったこと

・ パリを歩いていると物乞いをたくさん見かけた。また、電車の中でアコーディオンを演奏してチップをもらって周るような人も見かけた。

・ ホームステイ先の学生に聞いた話では、たいていのフランス人は無宗教だと言っていた。クリスチャンが多いイメージを持っていたので意外だった。

・ 3家庭にホームステイさせていただいたが、どの家も節水、節電は徹底されていて、人がいない部屋での電気や使っていない家電のコンセントのつけっぱなしは全然見なかった。もしかすると日本より勿体無い精神が強いかもしれない。ただし、学食の食べ残し用のゴミ箱はいっぱいだった。

・ 治安が良くないのでスリや物乞いに気をつけるように言われていたが、実際は何も盗られず、パリでお金を落とした時も物乞いが拾ってくれるほど治安の面には恵まれた。観光地に行けば英語で話してくれる人もたくさんいた。地下鉄の階段でスーツケースを持って降りている時に女の子の人が日本語で“手伝う”と言ってくれ、代わりに下まで持って降りてくれた人もいて、フランス人の温かさを感じた。

・ フランス人の学生は私たちのプレゼンに対して積極的に質問や意見を述べてくれたが、それに対して日本人側は聞かれたことしか答えられず、そこから派生した知識を伝えることができなかったことは後悔した。

・ 折り紙を教えた際、角と角を綺麗に合わせるといった日本人に馴染みの深い作業は不得意な学生が多かった。ただ、折り方の工程自体は飲み込みが早い人が多かった。

・ 日本語がよく出来る生徒と不得意な生徒の差が著しい。得意な生徒はたいてい日本のアニメや漫画、ゲームなどで勉強していた。かるたをした際に枚数としてそれが目に見える形でわかった。

・ 日本語クラスは、かなり文法の細かい根本的なところを学習していた。会話のレッスンはなく座学で2時間行われたが、生徒たちは積極的に質問をしていて、時にはちょっとした議論のようなことにもなっていて面白かった。

・ 何においても線引きが曖昧な文化で、セキュリティチェックも適当で、家に入って靴を脱ぐ場所も曖昧であり、いつの間にか授業が始まったりと日本のように何もかもルールに則って進めるというようなことはなく、各々の裁量に委ねられているような感じがした。

・ 積極的に、主体的に動いたり発言するように心がけたが、それでもフランス人からするとまだまだ日本人はシャイで内気なように見受けられるようなのもっと動ける幅を増やすためにも日本で語学力を磨いていくべきだと思った。

● インターンシップが今後どう活かされていくか

・以前より様々な状況に対して柔軟に対応出来るようになったと思うので、異文化や言語の壁があってもコミュニケーションを取り、何かしら伝達するという事は今後外国人や異なるバックグラウンドを持った日本人と接する時に助けになるのではないかと思います。

・今回、フランスに1ヶ月間いて、1回生の頃は苦手意識を持っていたフランス語に今は全然抵抗がなく、より勉強したいと思うようになったので、仏検を取得したいと思う。

・多文化社会や環境問題、格差問題、生活様式、仕事観、宗教、歴史的建造物の見学などを通してフランス文化を身をもって実感できたので、それぞれについてより興味が深まり、それらの中からテーマを絞って研究し、卒業論文を書きたいと思う。



● 後輩たちへのメッセージ

フランスは多文化社会なので様々な人、文化、宗教が混合していて、非常に面白い国です。フランス語ができなくても、英語やジェスチャーなど、何かしら伝達手段はあるので、自分が興味を持ったことに対して積極的に動きましょう。私は1回生の時、フランス語が苦手でしたが、フランスの文化や多文化社会に興味を湧き、このインターンシップに参加しました。結果、自分が興味を持っていたことを現地で見て聞いて学べた上、フランス語に対する勉強したいという意欲が湧きました。少しでも英語が話せたら会話が生まれ、会話ができればもっとたくさんのお話を話したいと思えるようになるので、自然とモチベーションも上がります。交流したのは日本に対して興味を持ってきている学生たちなので日本のことをもう少し知っておくとより話の輪が広がると思います。

言語の壁はありますが、それを乗り越えられるくらいのモチベーションや積極性があれば問題ないのであまり躊躇せず海外へ行きましょう。フランスに限らず、海外へ行くとなんか日本ではわからなかったこと、気づかなかったことが見えてきます。そういったものに対して一つ一つ積極的に目を向けていくと、そこから自分の興味の幅も広がり、将来における選択肢も増えると思います。決して楽しいことばかりではありませんが、是非そういった経験も含めて時間のある学生のうちに海外へ行くことをお勧めします。



